

## 第138回経営協議会議事録

日 時 令和5年3月20日（月）15時～17時10分

場 所 第一会議室

出席者 (学外委員)

門脇委員、川上委員、小間委員、鈴木委員、長友委員、端山委員、森口委員、  
安田委員

(学内委員)

田野学長、小花理事、阿部理事、大家理事、三浦理事、西岡学域長、西野研究科長  
(オブザーバー)

小池副学長、村松副学長、山口副学長、坂本副学長、吉海監事、名取監事

### 議 題

#### 議事録報告承認

1. 第137回経営協議会議事録報告承認 (資料①)

#### 審議事項

1. 令和5年度人事実施方針（案）について (資料②)
2. 令和5年度学内当初予算について (資料③)
3. 令和5年度資金運用計画等について (資料④)
4. 「共創進化型イノベーション・commons マスタープラン（案）」について (資料⑤)

#### 報告事項

1. 危機対策本部からの報告について (資料⑥)
2. 令和5年度経営協議会開催日程について (資料⑦)

### 議 事

#### 議事録報告承認 第137回経営協議会議事録

田野学長から、第137回経営協議会議事録（案）について説明があり、これを承認した。

#### 審議事項 1. 令和5年度人事実施方針（案）について

田野学長から、現行の人事活性化大綱に沿って人事実施方針を定めることとし、令和5年度の人事実施方針については、以下の2点について見直しを行う旨の説明があり、これを了承した。

①教育研究職員（教員）について、教員採用計画に定める令和5年度の採用人数

を見込む員数に修正する。

- ②事務系職員について、休職等の実績を踏まえた標準人数の見直しを行う。また、令和5年度の概算要求で新たに認められた「デザイン思考・データサイエンスプログラムの設置」の教員人件費に基づき、外数の員数計画として追加する。

なお、これまで別途定めていた人事計画策定指針は、人事実施方針の一環とし統合することとした。

主な意見は次のとおり

- (学外委員) 出産に伴う男性職員の休暇取得実態はどのようになっているか。
- (学内委員) 年間2名程度の男性が育児休暇を取得している。男性職員の育児休暇取得をさらに促進するために標準人数を増やした。
- (学外委員) 男性職員が育児休暇を取得しやすい環境を整えることは大切である。
- (学外委員) 取得しやすい環境が整い、多くの職員が長期間の育児休暇を取得できるようになると業務の遂行体制の問題もある。
- (学内委員) 育児休暇を取得しやすい環境を整えることに加えて、休暇を取得している人がいても滞りなく業務を遂行できる仕事の行い方についても変えていかなければならないと考える。

## 2. 令和5年度学内当初予算について

三浦理事から、前回の経営協議会において了承された「令和5年度予算編成方針」、「間接経費等の活用方針」に基づき、①「教職員人件費の優先的な確保」、②「教育研究基盤経費の維持・確保」、③「既存事業の徹底的な見直し・社会インパクトの創出等に向けた新たな投資」、④「財務戦略を踏まえた予算配分の推進」、⑤「原材料等の高騰を踏まえた光熱費の確保」の5つの柱を踏まえた令和5年度学内当初予算を編成した旨の説明があり、これを了承した。

主な意見は次のとおり

- (学外委員) デザイン思考・データサイエンスプログラムの設置は産業界にとっても望ましいことである。特に生成AI、ローコード、ノーコード、Web3.0も含めてこの分野は非常に重要であり、その中でデザイン思考、システム思考、国際感覚、イノベーションマインドを強化していくということだと思う。ただ、日本の国際感覚やイノベーションマインドは世界レベルには達していないと認識しているが、このプログラムをどのように進めていこうとしているのか。

また、量子コンピューティングに対しての機能強化についてはどのように考えているのか。

- (学内委員) デザイン思考・データサイエンスプログラムは学域から修士までの6年一貫教育となる。基礎的、専門的な科目も授業を行うが、連携企業の協力の下、座学にとどまらない実践的なトレーニングを行うこととしている。また、例えば、合宿形式で学生と連携教員がディスカッションしながらイノベーションマインドを育成することや、国際感覚を養うため、学域3年生は国内、修士1年は海外のデータサイエンス関連企業でインターンシップを行うことを必修としている。

また、Kaggleという国際的なコンペティションに参加し、Kaggle Master や Kaggle

Grandmaster といったデータサイエンス業界ではライセンス的に通用する称号の取得を目指す。

(学内委員) 本学は、レーザー新世代研究センター、量子科学研究センターを設置しており、量子研究の拠点と言える。また、全ての学生に量子について教育をする取組を行っている。

(学外委員) 何かあった際の予備費について、昨年度と比較すると半分程度となっているが、問題はないのか。

(学内委員) 予備費については、ここ数年は年度途中の学内補正予算の財源に充てており、特に問題はないと考える。

### 3. 令和5年度資金運用計画等について

三浦理事から、令和4年度の資金運用の実績の報告及び、安全かつ効率的に運用することにより、本学の中長期的な財政基盤の強化を図るとともに将来の教育研究の発展に資することを目的とした令和5年度の資金運用計画について説明があり、これを了承した。

### 4. 「共創進化型イノベーション・コモンズ マスタープラン (案)」について

三浦理事から、UEC ビジョン～beyond 2020～を実現するため、文科省から大学キャンパスに求められている「イノベーション・コモンズ (共創拠点)」への転換も含め、今後のキャンパス整備の基盤とすることを目的として、「共創進化型イノベーション・コモンズマスタープラン(案)」を策定し、その内容について説明があり、これを了承した。

主な意見は次のとおり

(学外委員) 共創進化という概念が具体的に分かる大変良い案だと思う。どのぐらいのスパンで実現を考えているのか。

(学内委員) 全ての実現については、数十年かかるが、国際交流会館や保育園については、PFIにより、また、共創進化型の新しいAR/VR も入った建物については概算要求を行って、来年度中に具体化したいと考える。

(学外委員) 米国は大学に近接してビジネススクールがあり、大学の時からビジネスを常にかけているため、イノベーションが生まれる環境にあるが、日本はそのような環境ではない。リアルは難しくてもメタバース上で行う等の工夫をしてはどうか。

(学外委員) 共創進化スマート拠点とすることだが、共創相手としてはどのような方に入居してもらい、どのような中身にしていくのか。また、スタートアップの方が集う拠点は今回の構想の中でどのように位置づけているのか。

(学内委員) 共創の相手は民間企業だけではなく、学生、卒業生を含む多次元の共創を考えている。また、スタートアップについては、例えば、エネルギー分野で民間企業とスタートアップ養成といったようなものが考えられる。

(学外委員) グリーントランスフォーメーションやカーボンニュートラルについての具体的な計画が出ていなかったが、太陽電池パネルを入れようとするとスイッチングの所で結構な雑音がでるため、導入計画を具体化される際はそのあたりを注意された方が

良い。

スマートモビリティのような新しいものを導入する可能性もあると思うので当初からある程度想定した方が良いのではないかと。

また、東側に計画道路があるがいつまでならこれを使っても大丈夫ということとは分かっているのか。

(学内委員) 太陽光発電はすでに多くの建物に設置しており、雑音は出ているとは思いますが、今のところ、苦情はきていない。ただ、本学は東京都との事業で都市型の円筒形の太陽光発電の実験スペースとなるため、雑音については今後調べることとしたい。

また、学内にレンタル系のスマートモビリティを導入することも議題としては上がっている。

計画道路については、調布市とこれから調整したいと考える。

(学外委員) リモートの人とフィジカルにその場にいる人の場をつくることはそれなりに難しくテクニックが必要だと思われる。この先、大学の中にリモートの人とフィジカルの人割合はどの程度になるとイメージしているのか。

(学内委員) やはり大学はリアルに沢山の人が集まる場所であり、そこにバーチャルに色々な国や国内の地方の人が参加するようなイメージを考えている。リアルに軸を置き、VRを活用するというスタンス。現時点では、どのくらいの割合、どのように活用するかということはまだつかめておらず、様々な検証が必要だと考える。

(学外委員) 人に来て欲しい、集まって欲しい時、その場は居心地が良く清潔できちんと掃除が行き届いていることが重要である。場を作ってもどのようにそれをサステイナブルにメンテナンスしていくのか、そのあたりはこのマスタープランにどのように盛り込まれているのか。

(学内委員) マスタープラン以前の問題として、居心地の良い集まる場所があるかどうか分からない、という学生が多いため、そうした学生たちに集まる場所がある、ということ伝えることが大事であり、空き講義室などを学生が使えるようにしようとしている。また、清掃等については、業者への依頼や、学生のオンキャンパスジョブなど、様々な取組みにより居心地の良い場所を作っていきたいと考える。

#### 報告事項 1. 危機対策本部からの報告について

田野学長から、危機対策本部（新型コロナウイルス感染症対応）で前回の経営協議会以降に審議、決定した内容について報告があった。

#### 2. 令和5年度経営協議会開催日程について

田野学長から、令和5年度経営協議会開催日程について報告があった。

(学内委員) 今後の意欲的な政策を展開するため独自財源をどのような展望で増やすのかと言うことが非常に大事。

予算確保は、これまで行ってきた概算要求と外部資金の間接経費、雑収入、そういったものが柱となっているが、本学は、時代が求める新しい領域の先頭に立って行動しているので、そういった展開と連動させた新しい財源基盤を作るということを考えてはどうか。

(学内委員) 共創進化型イノベーション・コモンズ マスタープランについては、素晴らしいと思う。特に学生を第一に考え、学生に対するアンケートをきちんと精査し取り入れていることは評価できる。

[配付資料]

- ①. 第137回経営協議会議事録(案)
- ②. 令和5年度人事実施方針等について
- ③-1. 令和5年度学内当初予算(案)について(概要)
- ③-2. 令和5年度学内当初予算(案)
- ③-3. (参考資料)令和4年度予算編成方針
- ③-4. (参考資料)間接経費等の活用方針
- ④-1. 令和5年度資金運用計画(案)について
- ④-2. 別紙 令和5年度資金運用計画(案)
- ④-3. 令和4年度資金運用実績一覧
- ⑤. 共創進化型イノベーション・コモンズ マスタープラン(案)
- ⑥. 危機対策本部からの報告
- ⑦. 令和5年度経営協議会開催日程